



小久保 照枝 議員 公明党

問 ひきこもり支援のサポートを

答 担当課で連携し支援をすすめる

問 ひきこもりの相談窓口と周知は。

答〔福祉課長〕福祉課及び社会福祉協議会で対応。周知はしていない。

問 相談内容とその後の対応は。

答 うつ病で退職された人が、障害年金と精神保健福祉手帳を取得し、就労継続支援事業所の利用につながった。

問 当事者と会えない場合の支援制度や給付、手帳の申請はできるのか。

答 本人が指定医で受診後、家族の代理申請が可能。

問 親へのサポートや支援は。

答 保健師と連携し利用できる制度の支援を進めていく。

問 アウトリーチ（訪問支援）などサポートが必要であるが本市の取り組みは。

答 生活自立支援センターと連携しサポートしていく。

問 本市と社会福祉協議会の問題解決に向けての取り組みは。

答 お互いが紹介し、つながりなど連携し解決にあたっている。

問 8050などを含む包括的な相談窓口体制の取り組みは。

答 先進市を調査、研究し、福祉課と各課で連携していく。



問	視聴覚障がい者へのサービスを
答	普及啓発に努めていく

問 新生児難聴スクリーニング検査はされているのか。

答〔福祉課長〕保護者負担で病院で検査。

問 難聴児の早期発見と療育体制支援の取り組みは。

答 新生児聴覚スクリーニング検査の他、3歳児検診時に聴こえの確認をしている。障がい判明した場合、総合病院を紹介。

問 聴覚障がい者への本市のサービスは。

答 毎週水曜日、手話通訳者を福祉課内に配置し、申請手続きなど支援。

身体障害者手帳取得者や18歳未満の方に補聴器の購入や修理の補助。

問 「代読、代筆案内表示」を本市窓口を設置し、サービスの支援に取り組みないか。

答 小牧市などの先進市を調査していく。

問 〔電話リレーサービス〕を周知し推進していくべきでは。

答 国の動向を注視しながら普及啓発に努めていく。

問 「防災ベスト」を視覚障がい者に貸与できないか。

答 有効な手立てと考えるので検討していく。

※オペレーターが通訳として聞こえる人と聞こえない人を電話でつなぐサービス。



▲小牧市「代読、代筆案内表示」